

ル會社倉庫ニ於テ標記演說會ヲ開催シタルハ狀既左記ノ通ニシテ演說中第四席松田某及第十席遠谷某兩名ノ論旨ニ不穩ノ虞アリ中止ヲ命じラシタルニ平穩程ニ撤辭セリ

記

八 聴衆 組合員五〇、附進小商人勤人七〇

労働者三〇 計百五十六名位

二年士

飲伏某 福本正松 白石盛一 松田某 渡辺連

山田安三 成田三郎 古畑清 熊本虎藏 遠谷某

富田繁藏 以上十一名ニシテ論旨大同小異ナルニ主

ナル演說要旨別記ノ通

右及中(通)報候也

別記

東京波工組合 福本正松

諸君が専断ヲ裁断と開始され、以来既四十日に達して居る。今迄不漸ノ努力を以テ勇敢に我公を擁護して居らるゝことを感謝する次第でありませ

共ニ組合ノ同盟を我組合ノノ恆定を裏切つた内ノ士氣、同感せられた感があります。乍先方協会の解散程意の目的に向つて突進する大義の爲に日同盟一ツの音も切は行

東京波工組合 杉岡 某

諸君早々の各道及友道組合のうちに就ては各形を以て居る水で氷を以て固く、と欲するよりか我を我々のいとして不可思議なためか一ツある。それは原一、此道の彼れの中、心算もある元来ゆゆと名がつく奴に、ろく奴月ない我々日、此の女の後目より、是しう程迄を突進した件、其の日は最後の手、唯一ツだ。彼れ我々の同盟に非ざる、及却中某が、此の上野、既記に於ける(中一止)

遠谷

甲及勇内閣ハあの協会の維持を著布して各々の組合に對して全く之を法逆計り、案々加ハ各々の組合を根絶しようとして居る下である。案々加ハ極々な

一一(中一止)